

兵庫県版高等学校地理歴史科用副読本

『世界と日本』とその活用

明山 修

はじめに

兵庫県教育委員会（以下、「委員会」という）は、平成二六年三月、世界史の授業の中で日本や兵庫県の歴史を関連づけて学べるよう副読本『世界と日本』を作成した。これは、「第二期ひょうご教育創造プラン（兵庫教育基本計画）」が培うべき力の一つとして、「伝統と文化を尊重し、我が国やふるさと兵庫を愛する態度を養うとともに、異なる文化や価値観を理解し、国際社会の平和や発展に貢献する力」を掲げ、「グローバル化が進行する社会において、子どもたちが、将来、国際社会で活躍できるよう、語学力やコミュニケーション能力を育むことはもとより、主体性や創造性、チャレンジ精神、リーダーシップ、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティなどを培うことが重要である」との方針を具現化するため作成された

ものである。

平成二四年六月、副読本構想委員会が、原田智仁兵庫教育大学大学院教授を委員長として学識経験者、県立高等学校の校長及び教員、一・二名の委員で設置された。

同時に設置された副読本作成委員会は、委員長・副委員長と二七名の委員が総て兵庫県教育研究会社会部会の会員であり、その所属は、全日・定時・通信制、普通科・専門学科・総合学科の校種から網羅し、年齢層は二〇代―五〇代（うち女性教員五名）で構成された。これは、全ての県立高等学校生徒が使用する副読本を作成するという趣旨から人選されたものであり、委員会は方向性を示すあくまで裏方に徹し、執筆内容の具体については、作成委員会に委ねた。



兵庫県版高等学校地理歴史科用副読本『世界と日本』（兵庫県教育委員会）

小中学校・高等学校の教育課程の系統の中で、小中学校は日本の歴史、地理に特化してきた。高等学校での世界史の必修化は国際化の進む中で、世界認識を広げる意図があったが、高等学校だけを見ると、なぜ「日本人」なのに日本史をとばして世界史が必修なのか、議会等でも議論された。東京都教育委員会の日本史の必修化や学校設定科目「江戸から東京へ」もその対応であろう。兵庫県でも県議会等で同様の議論がなされ、それへの対応として委員会は、日本史を学んでいない生徒にも、世界史の授業の中で日本史を学んでもらいたいと兵庫県独自の副読本を作成した。

『世界と日本』の構成

本書は、第一章「ユーラシア諸地域と日本」、第二章「世界の一体化と日本」、第三章「世界と日本の近代化」、第四章「冷戦の時代からグローバル化の時代へ」の全四章、三五項目から構成されている。そして、第一章～第三章を「交流」の概念により大別し、第一章はユーラシア諸地域を結ぶ「陸の道」と日本海・東シナ海を通しての具体物（人・もの）の交流。第二章は大航海時代以降の世界の「海の道」（船）を通しての具体物（人・もの）の交流。第三章は世界がシステム化、ネットワーク化される中ででの交流である。一方、第四章は第二次世界大戦

後の歴史の中で、エポックとなる兵庫県内での出来事や産業、施策等を項目とし、それらを通して各時代の政治、経済、社会、文化を概観している。また、兵庫県西脇市「へそ公園」を中心に正距方位図法で領土・排他的経済水域等を図解し、その歴史の変遷を年表で示している。

次に、第一章～第三章の二八項目に共通する特色は、まず「中学校教科書では」と題し項目ごとに生徒たちが中学校で学んだことをふり返りながら、年表・地図・資料を通して世界史と日本史の関連が理解できるようにしている。また、多くの項目では世界史と関連が深い郷土（ふるさと）の遺跡や兵庫県にゆかりのある人物、産業等を記載している。さらに、項目の最後には「考えてみよう」を示し、自分自身で調べ、深く考えていく学習ができるように工夫されている。

項目12「銀が結ぶ世界と日本」を例に

各項目は、基本的に世界史の学習の途中に「投げ入れ教材」として使用することを想定している。本項「銀が結ぶ世界と日本」は、高等学校学習指導要領世界史Bにおける「諸地域世界の結合と変容」、内容は「アジア諸地域の繁栄と日本」、具体的な内容は、「明・清帝国と日本、朝鮮」や「16世紀～18世紀のアジア諸地域の特質」等での使用を想定している。

もって県下6地区で実施した。この研究会では、副読本で取り上げられたふるさとの遺跡やゆかりの人物、社寺等に地域的なばらつきがあり、各高等学校での教材として使いにくい項目がある、との意見があった。これはもつともなことであり、地勢的に江戸時代までの国でいえば兵庫県は摂津国・播磨国・淡路国・但馬国・丹波国の五国から成り立っており、現在でも言葉使いや風習、生活文化に大きな差異がみられるためである。さらに、瀬戸内と日本海側では気候・風土が大きく異なり、生活圏も大河川の流域ごとに分かれていることにも起因している。そのため、今後、各高等学校が立地する地域の歴史教材を日本史、世界史の中に同時代史としてどう位置づけていくかも大切である。

一方、副読本の作成に当たった社会部会でも平成二六年度秋季研究大会において公開授業・実践発表を実施した。実践発表は、県立兵庫工業高等学校大久孔明教諭が「工業高校での歴史教育―副読本『世界と日本』を用いて―」と題して行った。学校が川崎造船所の近くに立地していることや、工業高校であることから、歴史を身近に感じることや工業に関するテーマを設定し、日本史Aの単元「産業革命」の授業に投げ入れ教材として副読本第三章項目21「第2次産業革命と帝国主義」を使用した。具体的授業内容や評価検証などについては、平成二七年度

全国歴史教育研究協議会研究大会において大久教諭が発表する予定である。平成二七年度、委員会は教師用指導資料(DVD)を各県立学校に配布し、副読本の積極的活用と効果的な授業展開を目指している。なお、副読本の価格は一冊一二〇円(税込)、学校単位で生徒に販売している。

(あけやま・おさむ／兵庫県立篠山鳳鳴高等学校校長・

兵庫県高等学校教育研究会社会部会会長)